

本報告書のマニュアルは、あくまでマニュアルであり、相談の仕方について正解が書かれているわけではありません。本マニュアルを使って学んでいただきたいことは、相談における重要なポイントと流れのイメージを掴むことです。実施の際は対象者に合わせて実施の仕方を変えるようにしましょう。

#### **(5) 問題の内容等によっては、実施に時間を要する(SOCCSS 法簡略版の使用)**

取り上げる問題や選択した事前試行の方法によっては、SOCCSS 法の全過程を実施するまでに時間を要する問題もあります。取り上げた問題が週 1 回、1 か月に 1 回等、起きる頻度が少ない場合です。例えば「毎月 1 回の定期業務を忘れてしまう」といった問題の場合、実際に解決策を実行し、結果を振り返るまでに時間がかかります。

また、職場で個別相談を実施しているときに、事前試行の「支援者、友人、家族、その他の人に、自分の考えた行動プランについて相談してみる」を選び、具体的には家族に相談してみると決めた場合、事前試行は自宅に戻って行うことになり、その日の相談場面では実行できません。

このように取り扱う問題の内容や事前試行の選択によっては、何度かの相談回数が必要となる場合があります。支援状況に応じ、必要であれば、SOCCSS 法簡略版を用いて、その場で実施していくようにすることも大切です。

## **第 6 章 まとめ**

本報告書では、ジョブコーチ支援等の個別相談場面における問題解決技能トレーニングの活用方法を開発し、その実施方法や留意点について事例を踏まえて紹介しました。開発の過程では、これまでに蓄積した問題解決技能トレーニングの知見を活かしつつ、効果的な個別相談を行うにはどうしたらよいかについて検討を重ねました。

対象者 1 人ひとりの障害特性や支援者との関係性等によって、個別相談の進め方は千差万別です。今回作成した支援者用の相談マニュアルについても、それをモデルとしていただきつつも、目の前の対象者の反応を見ながら柔軟な対応を意識して活用いただければと思います。

そして、そのような対象者に応じた柔軟な対応ができるようになるためには、実施前に支援者がその内容を理解しておく必要があります。今回の実践報告書が、支援現場での問題解決に役立つものとなり、また、就労支援担当者のスキルアップの一助になればと考えます。